

第191回大阪市外郭団体評価委員会

令和4年3月9日

開会 午前10時00分

【小山法人担当課長】 定刻になりましたので、第191回大阪市外郭団体評価委員会を始めさせていただきます。

私は、本委員会の事務局を務めております総務局行政部法人担当課長の小山でございます。

それでは、議題に入りたいと思いますので、以後の議事進行につきまして、野村委員長をお願いいたします。

野村委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 本日は、委員全員にご出席いただきありがとうございます。大阪市外郭団体評価委員会規則6条2項により、会議が有効に成立しております。

本日の議題1、2のクリアウォーターOSAKA株式会社の令和3年度経営評価（対象事業活動）について及び中期目標の期間の終了時の検討については公開で行います。

それでは、最初の議題について、事務局からご説明をお願いします。

【小山法人担当課長】 ご説明いたします。

建設局が所管する外郭団体であるクリアウォーターOSAKA株式会社の令和3年度経営評価につきまして、大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例第7条第4項の規定に基づき、諮問をいたします。

内容につきましては所管所属からご説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【野村委員長】 それでは、所管所属からご説明をお願いします。

【建設局】 おはようございます。建設局下水道部下水道管理担当課長の坂口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、私の方よりクリアウォーターOSAKA株式会社の令和3年度における事業経営評価についてご説明を申し上げます。

まず、様式1をご覧くださいませ。

中期目標といたしまして、当該団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容につきまして、下水処理場、ポンプ場、下水管路、その他の本

市下水道施設全体を総合的かつ一体的に維持管理し運営することといたしました。行政目的又は施策によって実現しようとしている状態を、本市の下水道施設全体を総合的かつ一体的に維持管理し運営できる体制が確保され、当該施設が中期目標の期間を通じて安定的かつ効率的に維持管理し運営されている状態としております。

次に、様式2をご覧ください。

この中期目標を達成するための中期計画といたしまして、人材育成計画の立案と実施、有資格者やベテラン技術者の監修によります研修を年4回実施し、下水道施設の維持管理に係る資格の新たな資格取得者、合計10名以上を目指すとして定めております。

これに対しまして、期間を通じました達成状況でございます。

指標Ⅰの研修の実施状況につきましては、目標値の年4回に対しまして、技術資格を持った課長級監修によります研修を年4回、これを計画どおり実施しております。

指標Ⅱの資格取得につきましては、目標値の計画期間、合計で10名以上に対しまして、模擬試験を実施し、試験後には解説やワンポイントアドバイスを取り入れる等、取組を行いました結果、目標を上回る合格者22名を達成しております。

次に、外郭団体の自己評価でございますけれども、人材育成計画の策定につきましては、検討会議を重ねまして研修の年間実施計画などを再整理するとともに、令和3年度中に人材育成計画を含めました新たな中期経営計画を策定いたします。また、先ほどご説明させていただきましたとおり、研修の実施、資格取得につきましては、目標を達成しております。以上によりまして、指標の達成状況につきましては全部達成のA、中期計画の目標達成状況につきましては、計画期間中の達成見込みのイとしております。

次に、市の審査でございますけれども、外郭団体の自己評価に対する審査結果につきましては、人材育成計画は現時点での案が本市に示されておまして、その進捗から計画期間中の策定は確実であると見込んでおります。また、研修の実施、資格取得につきましては目標を達成しておりますことから、団体の自己評価は妥当であると考えており、中期計画の達成状況につきましては計画期間中の達成見込みであるイとしております。

中期目標達成の視点から見た審査結果につきましては、人材育成計画は本市の下水道施設を安定的かつ効率的に維持管理し、運営するための団体の取組課題を抽出し、その対応に必要な人材の確保と育成に向けたものとして策定が進められております。また、中期計画に定めた研修の着実な実施によりまして、維持管理に関する高度な技術的知識の習得が見られ、その効果として目標を上回る22名の方が資格取得を達成しており、中期目標

に對しまして団体の取組が有効なものであったと考えております。

恐れ入ります、様式1に戻っていただきまして、最終年度、中期目標の期間を通じた評価、こちらでございます。

外郭団体の自己評価でございますけれども、取組が1種類でありますことから、様式2でご説明いたしました内容と同じものとなっております。

市の評価でございますけれども、団体が指標とした研修の実施及び資格取得については全て達成するとともに、人材育成計画も計画期間中に策定予定であり、団体における技術力を確保し、将来にわたって安定的かつ効率的に維持管理し、運営されている状況を目指すための取組が効果的なものであったと考えております。

本計画期間中におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大によりまして、集合形式による研修の実施が難しいところ、オンライン形式で行うことにより着実に実施するとともに、資格取得に向けた模擬試験後には習熟度を踏まえた対応を行ったことは評価できるものと考えております。

現在の下水道施設の包括委託につきましては、契約期間が今年度で終了を迎え、次年度から新たな包括委託の契約となりますけれども、本市の下水道施設全体を総合的かつ一体的に維持管理し、運営できる体制が確保され、当該施設を安定的かつ効率的に維持管理し、運営するため、今回策定する人材育成計画に基づく取組を進めていただきたいとしております。

説明につきましては以上とさせていただきます。

【野村委員長】 ありがとうございました。

では、委員の皆様からご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【市口委員】 委員の市口です。

この中期計画達成状況、指標としては、要は人材の技術力底上げというところに、目標というか指標を持ってきたんだというふうに理解しとるんですけども、もちろんそれは大事なことであるというふうには当然理解しているんですけども、その前提となるところの、例えば少子高齢化ということから考えれば、人材の確保、数的な確保というところもあろうかと思うんですけども、比べたらいかんのでしょうかけれども、水道総合サービスさんなんかでしたら、割合その辺の数の確保的なところも中期経営計画的なところには入っていたかと思うんですけども、その辺り、人材の数の確保というところ、採用というところですか、その辺りは順調にいつているというふうな判断なんでしょうか。

【建設局】 事業管理担当の山村と申します。よろしくお願いします。

クリアにつきましては、先日こちらの方で議論させていただきましたように、非正規職員につきましては、正直なかなか集まらない状況もございます。

ただ、正規職員につきましては計画どおり採用はできておりまして、何とか会社としての正規職員としての確保については、ここの計画を立ててやっていきたいと思っております。先ほど作っておると申しました人材育成計画とかでも、正規職員の確保をスケジュールを立てて考えているところでございます。そこについては、今のところ一定進んでおりますが、委員おっしゃるとおり、方法につきましてはさらに取組が必要かと考えております。

【市口委員】 ですから、正職員の方については順調にいつているのでというところで、特に中期計画であるとか、その辺の指標では特に挙げていないと、そういうご判断ということですね。分かりました。

【水上委員】 委員の水上です。よろしくお願いします。

目標値も全て達成されているということで、大変素晴らしいことだと思うんですが、良かったら良かったで、またその理由について確認しておくことも重要かと思うんですが、かなり想定を上回る実績値かと思うんですけれども、この理由については、先ほどご説明の中にあつた習熟度別の対応といったようなもの、試験対策的なものなのか、それとももっと別の取組があつたのか、その辺り、少しお聞かせいただけますでしょうか。

【建設局】 建設局下水道部調整課、山本です。よろしくお願いします。

先ほどご質問いただきました件に関しましては、当然業務をしていくという中での技術力の底上げという部分になってきますので、業務的なところ、研修という部分はOJTを含めてやっております。そこでついてきた知識を底上げするプラスアルファの取組という部分のところで、模擬試験を実施して、その回答の達成度といいますか、正解している内容、間違えている内容で、同じような間違いが増えているようなところに対して、習熟度を踏まえたワンポイントアドバイスでありますとか、そういうところをやっているということで、日常の部分に対してプラスアルファ、そこをさらに補強する取組をやった、それでそれが成果を上げたというふうに考えております。

【水上委員】 分かりました。ありがとうございます。

【堀野委員】 委員の堀野からもご質問させていただきます。

研修の実施回数も資格取得についても目標値を達成しているということなんですけれど

も、合格率30%程度ということで、難易度が高いということの関係で、研修というのは資格取得をする方だけ限定で研修をされているのか。それから、資格取得、かなりきめ細やかな、先ほどもおっしゃっていたような解説とかワンポイントアドバイスということで指導されているのかと思いましたので、大体何名ぐらいの方がこういったことに取り組んで、こういった結果に結びついたのか。

これからもこういった資格取得の方を増やしていくということになれば、同じような努力ということが必要になってくるのかと思いますので、その辺についての状況についても教えていただければと思います。

【建設局】 研修の受講の対象というところになってこようかと思いますが、今回2年間の計画で、昨年度、計画策定が8月という形で、ちょっと立ち上げの遅くなったという部分がございます、試験が12月に毎年実施されているものになっているのです。短期間の中で成果を上げていかないといけないということで、昨年度は希望者を募る形やモチベーションの高い人間に受講させてスキルアップをさせていくという形で、実施しております、昨年35名の研修希望者がございました。結果として、合格者が昨年度10名という形になっておりましたので、スキルアップしたいというモチベーションが高い職員を上げていくというのが一番目的の達成という部分では成果が上がりやすいというふうに思いますので、今年度につきましてもまずは一旦希望する者を募るという形をしております。

結果としまして、今年度40名が研修の方を受講しております。今年度は試験につきましても、その研修を希望した者が受験するという形で、結果12名の合格者が出ております。

【堀野委員】 ありがとうございます。

そうすると、研修を受けた方が大体この模擬試験とかも受けられて、勉強を続けていくと。確かにこの合格率と大体同じような、受講者の方と同じくらいの割合なので、かなり皆さんも頑張っておられるんだと分かります。ありがとうございます。

【佐藤委員】 委員の佐藤です。よろしくお願いいたします。

いずれの目標も達成されていますので、その点は全然問題ないというふうに考えております。

私の知識不足ですけども、資格の下水道管理技術認定と下水道技術検定（3種）という資格については、ほかの組織も受けられているようなものなのか、一般的に30%の合格率というのは、一般よりは良いのか、良くないのかとか、どういった人たちが受けられて、どういうふうな合格率かという、全体的なことを教えていただけませんか。

【建設局】 下水道管理技術認定といいますものが、下水道の管の、道路下に埋設されています下水管、これの維持管理に関わる資格となっております。全国規模で大体1,600名程度、今年度受験されていまして、合格率が大体3割から4割という辺りになっております。民間の下水道のメンテナンス、管路をやっている土木系の業者さんからの受験者がおられるという形になっております。

下水道技術検定の3種の方ですけども、こちらは下水道の処理場でありますとかポンプ工場、こちらの機械設備などのメンテナンスに関する資格の方になっておりまして、こちらの方も民間の事業者さん、メンテナンス系の事業者さんの方が受験されています。こちらの方は全国でいくと大体5,000名程度、受験されていまして、合格率が大体35%という形になっております。

【佐藤委員】 大体同じぐらいの合格率ですか。

【建設局】 そうです、はい。

【佐藤委員】 分かりました。

【野村委員長】 野村からお伺いします。

今の資格の関係ですけれども、令和2年は目標が5名以上で実績10名で、令和3年は目標5名以上で実績12名ということで、いずれも目標を実績が結構上回っているという結果になったかと思うんですけども、これは想定より受験者が多くなったということなのか、あるいはいろいろ取組の結果、合格率が前はもっと低かったけど上がってきたということなのか、どういうふうに分析をされていますでしょうか。

【建設局】 こちらなんですけども、もともと公務員の者が転籍している職員が非常に多くなっております。その職員は高齢になっておりまして、もともと公務員はなかなか資格を取ろうという意識があまりありません。ですので、我々がこの資格を取られる方につきましても、先ほど申しました新規採用者を基本に考えておりまして、毎年20名ほどの新規採用者を採っておりまして、そのうちの去年でありましたら35名だったりとかが申し込んでいただいているというところがありますので、我々が狙っているいわゆる若手のところが非常に頑張ってくれているというのが正直なところだと思っています。

【野村委員長】 ありがとうございます。

ほかには皆様から、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 それでは、クリアウォーターOSAKAの経営評価に対する質疑応答

については以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、答申の取りまとめですけれども、特にご意見はなしでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

【野村委員長】 それでは、意見なしで取りまとめをお願いいたします。

【小山法人担当課長】 ありがとうございました。承知いたしました。またメールで先生方にご確認いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。